

平成27年 第2回臨時教育委員会会議録

1. 開催日時 平成27年7月28日(火)
午後0時59分～午後5時44分
2. 開催場所 柏原市教育委員会 委員会室
3. 出席した委員
- | | |
|---------|------|
| 教育委員長 | 三宅義雅 |
| 委員長職務代理 | 西育代 |
| 委員 | 田中保和 |
| 委員 | 山崎裕行 |
| 教育長 | 吉原孝 |
4. 出席した職員
- | | |
|-----------|-------|
| 教育部長 | 尾野晋一 |
| 教育監 | 蛇草真也 |
| 学務課長 | 松田成史 |
| 指導課長 | 野間浩一 |
| 指導課総括指導主事 | 津田亮 |
| 指導課指導主事 | 上垣雅史 |
| 指導課指導主事 | 野見山智浩 |
| 指導課指導主事 | 奥田祐介 |
| 指導課指導主事 | 堀切崇央 |
| 学務課指導主事 | 赤塚能章 |
| 社会教育課指導主事 | 吉岡潤一 |

5. 議事案件

議案第30号 柏原市立中学校用教科用図書の採択について

(継続審議)

6. 報告事項 他

7. 会議録の承認及び会議の要旨

三宅委員長：平成27年 第2回臨時教育委員会会議を開催いたします。本日の会議録署名は、田中保和委員、よろしくお願いたします。それでは、本日の議事案件に入ります。本日は第7回の定例教育委員会会議において、審議を終えることができなかった議案第30号柏原市立中学校用教科用図書の採択に関しまして、審議の方を再開したいと思います。なお、前回と同様、審議には非常に時間がかかりますので、教育委員及び関係課のみで進めてまいりたいと思います。委員の皆様、よろしいですか。

委員全員 : (了承)

三宅委員長 : それでは事務局の方から説明を再開して下さい。

事務局 : 数学について説明いたします。数学は、7者啓林館・大日本図書・日本文教出版・学校図書・数研出版・教育出版・東京書籍が発行しています。各者とも、巻頭にノートの工夫、学習の進め方を示しており、数学的活動を意識した作りとなっています。それでは、各項目について説明させていただきます。まず、「目標、内容の取扱い」についてですが、各者とも数学科の目標達成のための適切な内容になっています。特徴的なものとして、啓林館では、1年P80をご覧ください。新しい学習に入る際に、興味・関心を持ち、P81にある「ふりかえり」で既存の学習との関連をはかることにより、学習意欲を高める工夫がなされています。大日本では、1年P194からP201をご覧ください。「いろいろな立体」について、その特徴、内容が整理して示されており、学習理解が進みやすいように工夫されています。東書では、1年P91をご覧ください。「いろいろな方程式」では模範解答が示されているだけでなく、まちがい例を示し考える中で、学習内容の理解が深まるよう工夫されています。数研では、3年P108をご覧ください。「関数 $y=ax^2$ の変化の割合」の学習において、座標のとらえ方や変化の割合について、丁寧な解説と見やすい色使い・デザインを用いることにより、内容理解を促進するものとなっています。教出では、2年P53をご覧ください。「連立方程式の活用」の学習において、例題に対して考え方、解答を、視覚的にわかるよう提示することにより、生徒の理解が進むように工夫されています。次に「人権の取り扱い」ですが、各者とも地球温暖化と数学の関係に着目するなどした環境教育、点字・スロープの傾斜などを扱った福祉教育、日本や地域の伝統文化を大切に、世界の文化と数学とのかかわりなどを扱った国際理解教育、見やすい文字の大きさや配色を使用したユニバーサルデザインへの配慮、など、人権尊重の観点について配慮されています。次に「内容の程度」ですが、各者とも基礎・基本的な学習を大切に、既習事項の復習及び次学年や高等学校の内容につながるよう、生徒の発達段階に応じた内容になっています。特徴的なものとして、日文、3年P32をご覧ください。「いろいろな因数分解」について、解の公式を複数のパターンに分けて例示し、難解な問題にも対応できる力を養おうとしています。このように、多くみられる誤答例を示すことにより、つまづきへの対応を重視し、理解を深めるように工夫されています。数研、3年P71をご覧ください。平方根の発展として「無理数の証明」が記載されていますが、高等学校につながる内容です。教出、3年P215をご覧ください。「学習のまとめ」では、穴埋め形式で復習することができまた既習内容が確認できるよう関連するページが示されていることから、個別の学習に対応できるようになっています。学図、3年P160をご覧ください。「線分の比と平行線」の学習において学習内容の定着のため、節末に「確かめよう」で練習問題を提示し、繰り返し練習する機会を充実するとともに、関連する「例」を明示し、戻って復習できるようにしています。次に「組織、配列」ですが、各者によって多少の違いはあるものの、どの者も学習指導を有効に進められるよう、内容の系統性や配列について適切な配慮がされています。まず、1年では「平面図形の作図」(垂直二等分線・角の二等分線・垂線)の指導において違いがあります。東京書籍、大日

本図書は、(垂線・垂直二等分線・角の二等分線) 学校図書、日本文教出版は、(垂直二等分線・垂線・角の二等分線) その他は、(垂直二等分線・角の二等分線・垂線) の順で指導しています。次に「創意工夫」ですが、各者とも生徒が興味・関心・意欲を持って学習できるよう創意工夫がなされています。特徴的なものは、大日本、3年巻末P238～P262の「Mathful」では、数学の歴史や身近な生活の中にある数学の話題が豊富であり、生徒が興味関心を持てるように工夫されています。学図、2年P196をご覧ください。数学的活動の一例としてレポートづくりのポイントを示しており、表現する力を身につけながら生徒の内容理解を深める提案をしています。東書、1年P75をご覧ください。数学の公式で用いる文字が英単語の頭文字であることを紹介しています。他にも、他教科、社会、数学の歴史などと関連した内容を取り入れ、生徒の興味・関心・意欲を持つ工夫がなされています。日文、3年P16をご覧ください。「式の展開」の領域において、面積を用いることで計算を多面的に捉え、感覚的に理解できるよう工夫されています。また、計算式の色使いが統一され、解説が丁寧で分かりやすくなっています。啓林館、別冊「Math Navi ブック 1」、P16をご覧ください。小学校の内容との関連を生徒に考えさせることから、確実な定着がはかれるよう工夫されています。次に「補充的な学習・発展的な学習」ですが、全者が節末、章末、巻末などを利用し、個に応じた学習、振り返り学習、発展的な学習ができるように工夫されています。また、学習指導要領の範囲を超えた内容や高等学校へつながる内容にも触れています。最後に、「幼小中一貫教育の観点から」についてですが、全7者、巻頭、巻末、各章の始まりを利用して小学校も含め、全学年の既習内容をふり振り返り学習できるよう工夫されています。以上で、説明を終わらせていただきます。どうぞ、ご審議よろしくお願いたします。

三宅委員長： それぞれ各者によって特徴がありますが、本市の数学は、全国学力学習調査の結果をみると少し課題があるように思われます。その中で、柏原の子どもたちに適切な教科書を選んでいきたいがご意見はいかがでしょうか。啓林の MathNavi ブックは小学校の内容を振り返り、中学校の学習につなげるという流れがありますが、これがあるために、教科書の説明が簡略化され、内容や表現が難しくなっているように感じます。いまままで数学・理科について、啓林が特化して教科書作りをしていることから啓林を検討してきました。前は啓林、前々回は教出だったが、啓林に変えた経緯は、少し難しいかもしれないが学ぶ中でレベルアップをはかるという目的でありました。4年経った今どうだったか振り返りつつ検討していきたいと思えます。

吉原教育長： 現在使っている啓林の MathNavi ブックは今後活用されていくのでしょうか。別冊にすることにより紛失するというこも考えられますね。

事務局： 賛否両論でございます。

吉原教育長： 授業の中で活用することもあるのでしょうか。

事務局： 小学校の内容が載っているので、学習の復習として先に使ってからということも考えられると思えます。

三宅委員長： 紛失するという意見が出ましたが、本冊の解答がのっていることから紛失するとまずいでしょうね。

吉原教育長： 別冊にする意味がわからないが…。教師が先に回収し、解答を見ないということでしょうか。

三宅委員長： 小学校からのつながりの中で、家庭学習、自学自習する際に使いやすいようにという意図だと思われるのですが。

山崎委員： 中学1年のMathNaviブックは小学校の復習に確実に使えると思われます。例えば、日文、東書は本体の中に6年の振り返りという形で載せている。本体で小学校の振り返りをさせるか、別冊にするかの違いで個人的にはどちらでも良いが、別冊にすることにより本体の内容が充実するということがいえるでしょう。MathNaviブックは学びをつなげるという復習の意味合いが強いですよね。日文に初めて「予習・復習しよう」という言葉が出てきており、いい言葉が出ていると思いました。復習にじっくり取り組むという点で、MathNaviブックは有用かと思います。小学校でいう計算ドリルは中学校にあるのでしょうか。

事務局： ここ数年副教材の活用はございません。教科書を参考に教師が問題を作成しています。

三宅委員長： MathNaviブックは小学校でも予習復習ができやすいようになっていますね。

事務局： 小学校はドリルも活用する場合があります。

山崎委員： 中学生が問題をしたくても教科書だけなのでしょう。

西委員： これだけ問題数がいっているのでもしっかり復習できると思います。教科書には発展問題などもあり、さらに取り組みたい子どもは自分で用意するでしょう。

事務局： 本市では、「みんなの学習クラブ」という学習支援ソフトを導入しており、練習問題等で中学校は活用しています。

三宅委員長： 子どもたちが自学自習するためには教科書の中の問題量も必要となってくるでしょう。

田中委員： 現在少し難しい啓林を使っていますが、ここ数年学テの成績、柏原市は思わしくありません。そのあたりどう分析されているのでしょうか。効果がなかったのであれば、教科書も変えていくことも検討しなければならないと思います。

事務局： 全体的な検証は行っていませんが、現在の中3が小6時の結果も思わしくございません。中3の現在結果を見ると特に文章題など伸びてはございません。

三宅委員長： 文章題が解けるようになるという点から、例題の解説がしっかりしていることも大事でしょう。小学校で使っていた公式の一覧は啓林にございません。後の出版社は巻末などに記載していますが、啓林は問題の中で示しています。また、数研では、クイックチャージという中で公式が扱われています。その中で、中1から中3の教科書を見ると、日文は公式、解説が比較的丁寧でわかりやすいように感じます。国語、数学は特に取り組みを進めていかなければならない中で、比較的難しいものを選ぶか、内容がわかりやすいものを選ぶかというところも考える必要があります。数研などは比較的問題量もありますね。

山崎委員： 授業の流れは各者ともほとんど違いはないでしょう。子どもたちにはたくさん問題を解き、家庭学習にも取り組んでほしいです。そのように考えれば多くの問題に

出会える教科書がいいと思います。

田中委員： 数学の学力向上は柏原市の課題ですね。できるだけ丁寧に基礎から発展につなげていくためには、小学校からのつながりも加味し、日文が良いと思うのですが。啓林は内容をしっかり理解できている子どもにはいいだろうが…。

西委員： 算数から数学につながる段階において、つまづくことなく問題を解けた楽しさを感じながら発展へとつながってもらいたいです。自学自習といっても数学は時間がかかる教科で、取り組みばすぐにわかるというものではございません。柏原市の子どもたちに難しい問題をどんどん解いてほしいという気持ちもあるが、自分で見て解ける教科書が望ましいと思います。そう考えれば問題数が多いことよりも、段階を踏んで問題が解ける教科書が望ましいと思います。

三宅委員長： 話をまとめていきますと、難しいものにチャレンジさせたいが基本的なものという意見のように思われます。そうすると、日文、数研、当然啓林も名前が挙がっていますが、その他の出版社はいかがでしょうか。

山崎委員： 東書は「学び合いのページ」というところで話し合い活動を取り入れており面白いですね。

三宅委員長： 東書は例題の中に、間違いやすい例も示しているところが特徴ですね。そろそろ決めていかなければならないが…

吉原教育長： これまで使ってきた啓林をどうするかということが話し合うことができたと思います。また、各要望書も話し合われたものと同様な視点のものだと思います。

三宅委員長： それでは、わかりやすくまとめられている日文、難しい内容があるが現在使っている啓林、問題数の豊富な数研の3者で決めさせてもらってよろしいか。それでは啓林館、日文、数研3者で挙手をお願いします。

【3者について、挙手】

三宅委員長： それでは、どの出版社も優劣はないが、柏原の子どもたちに適切なものという点で、挙手多数の「日文」に決めさせていただきます。それでは、「理科」についての説明をお願いします。

事務局： 理科について説明いたします。理科につきましては、啓林館、東京書籍、大日本図書、教育出版、学校図書の5者が発行しております。まず、「目標・内容の取扱い」についてですが、各者とも理科の目標達成のための適切な内容になっております。特徴的なものとして、啓林館では、1年P124の「探求のしかた」では、課題設定から、実験の考察までの流れが示されております。また、「私のレポート」という項目があり、ここでは、実験で考えたことのまとめ方がわかりやすく書かれています。東書では、日常生活の事象を取り入れ、生徒の興味・関心を高められるよう工夫されています。大日本では、単元の始めに学習の流れが、写真等を用いてわかりやすく示されております。学図では、単元の始めに既習事項をチェックするページがございます。次に「人権の取扱い」については、各者とも生命尊重、平和、環境、共生について適切に取り扱われています。特徴的なものについて紹介しますと東書や学図では、グラフを色だけでなく線の形を変えるなどして、色覚の個人差を考慮しています。大日本や教出では、男女のイラストが均等に扱

われております。啓林館では、巻末にあるブルーシートによって色弱の生徒であっても支障なく既習事項の定着のための反復学習ができるようになっております。次に「内容の程度」ですが、各者ともわかりやすい文章表現で記述されており、児童の発達段階に応じた内容になっております。啓林館では、各学年の単元末に地域・環境資料集が設けられており、環境を総合的にとらえさせる工夫がされています。別冊「myノート」では、学習したことを書くことによって定着を図るようにされています。東書では、ゆとりをもった学習内容で、発展的な内容が負担にならないように適度に配置されています。また、計算がかかわる場合はわかりやすい例題を提示し、学習者の躓きに対応できるようにされています。学図、教出、大日本では、図や写真が多く見やすい内容となっております。次に、「組織・配列」ですが、それぞれが学習指導を効果的に進められるよう適切な配慮がされ、各者とも問題解決的な学習の構成になっています。啓林館では、単元初めに「振り返り」があり「考えてみよう」「予想してみよう」「話し合ってみよう」「活用してみよう」という学習の流れがつくられており、グループ学習がしやすいようになっております。大日本では、1年P194のように単元末に「学んだことを活かそう」という項目が設けられ、発展学習ができるよう工夫されています。学図では、旧1分野、旧2分野に分かれた配置になっており、わかりやすくなっています。次に、「創意工夫」ですが、各者とも児童の興味・関心を高める工夫がなされています。東書では、教科書に直接回路図を書き込むことができ、実験のイメージがわきやすいよう工夫してあります。啓林館では、2年P172にありますように「ぶれいくtime」で身近な科学技術の利用や先人の工夫などが取り上げられ、生徒の興味関心を引くようにされています。次に、「補充的な学習・発展的な学習」ですが、各者とも個に応じた指導の充実に向けて配慮されています。啓林館では、ブルーシートを活用することにより学習の定着が見込めます。また、myノートでは、学習の定着・応用力の育成が見込める内容となっております。東書では、単元末の「確かめと応用」問題では問題量も十分あり、学習の定着を図れるように工夫されています。大日本では、3年の年度末に1年からの復習問題が設けられ、中学校での学習内容の定着を図るようになっております。最後に「幼小中一貫教育の観点から」についてですが、各者とも小学校で学習した内容を補足、発展して学習できるように配慮されています。学図では、1年P75にありますように、小学校の何年で学習したかが書かれています。また、大きく扱われており、既習事項を確認しやすくなっております。教出では、1年P70の「思い出そう」の項目のように、小学校の内容が単元のどこに結びついているかを振り返ることができるようにされています。啓林館では、各単元初めに、「振り返ろう」が設けられており、そこでは小学校での実験の写真を載せるなど工夫もされています。また、東書、啓林館は1年生の文字の大きさを2・3年生より大きく設定し、小学校との接続がうまくいくよう配慮されています。説明は、以上でございます。

三宅委員長： 分野は各出版社によって、取扱い時期が違います。1年生でいきなり化学式から入っていくよりも、植物から入った方が入りやすい印象がしました。特に啓林館は分野の配置が3年間統一された形で編集されています。

山崎委員： 1分野と2分野の関係で、教育出版と学校図書は身の回りの物質が先に出て

きて、植物は後に出てきているのですが、これは学校では入れ替えて学習しているのですか。植物の方を先に学習するのですか。

事務局： 今まで、啓林館を使用していますので、そのまま学習しております。

山崎委員： もし、教育出版を採用したらどうしたらいいのでしょうか。やはり、植物から先に組み替えて学習するのでしょうか。

事務局： 組み替えて学習していくと思われませう。

西委員： チャレンジテストで理科において未履修のまま受験したという問題がありましたが学習する順番は決まっていなうのですか。

事務局： 決まってはおりませう。

西委員： では、学習する順番は、市や学校で決めているのですか。

事務局： 学年ごとには学習する内容は決まっています。

田中委員： 学年ごとには決まっています、それが終わっていないなうということですね。

事務局： そうだと思われませう。

三宅委員長： 理科の場合は、実験が多くなるので、教科書の編成上で、科学分野から入っていくと、初めから実験ができるのですが、必ずしも科学系の実験だけが実験ではなく、植物に関する実験も含んでいるのですが、たしかに積み残しが起きやすい。

山崎委員： 理科の場合は、啓林館の「myノート」は書いてみるということはとても大事なことであつて、ノートに教科書何ページを写しなさいというよりも、「myノート」に書き込む方が、学習になると思ひますし、とてもいいですね。「振り返り」で既習事項も思い起こせませうし、「考えてみよう」「予想してみよう」「話し合つてみよう」たくさん出てきます。かなり考えないとできないというところも工夫されています。「青色シート」は学習のまとめに使ひませうし、「myノート」の確認にも使ひませうし、いい勉強の方法だと思ひました。そういう意味では、啓林館は使いやすい教科書だという気がします。

三宅委員長： 巻末にあるサイエンス資料の中に、理科で使う数学が啓林館では載っています。他の教科書でも計算問題等は例示してあるのですが、数学として記載しているのは助かります。実験器具の表示は、どこの出版者もひとまとめにして巻末に表示していますが、啓林館は、各実験のところを使う器具を表しており、見やすい、覚えやすいという印象があります。

田中委員： 単元末の練習問題や、身の回りのことを中心に考えているのは東京書籍などですね。啓林館の「myノート」は優れていると思ひます。自分で書き込んで、自分で考えてやることは大切なことだと思ひます。この2者がいいのかなとは思ひます。

三宅委員長： 東京書籍の場合は、薬品の取り扱いについて、その注意事項を含めてかいてあるのは、理科の実験で使えると思ひます。

吉原教育長： 確かに東京書籍は、写真や文字もわかりやすい。啓林館は、興味関心を引きやすい。学習もスムーズにいけそうなイメージですね。

三宅委員長： 今までは、啓林館以外は使っていないのですか。

事務局： 使用しておりませう。

三宅委員長： 5者の出版社がありますが、お話を伺っていますと東京書籍、啓林館につい

て非常にいいという話ですが、この二つの中から決めさせていただいてもよろしいでしょうか。

委員全員：（了承）

三宅委員長： それでは啓林館、東京書籍、挙手でお願いします。

【2者について、挙手】

三宅委員長： それでは、理科については挙手多数で「啓林館」に決めさせていただきます。

それでは、「音楽」についての説明をお願いします。

事務局： 音楽について説明いたします。音楽につきましては、教育芸術社、教育出版の2者でございます。まず、「目標、内容」についてですが、各者とも幅広い分野から教材が取り扱われております。特徴的なものとして、教芸では音楽活動の基礎的な能力を伸ばすことができるような内容であります。各教科書の目次の次ページをごらんください。学習内容と各教材の関連が「学習MAP」に明確に示されており、授業計画が立てやすくなっております。教出では、様々な音楽分野に親しむことができるような内容で構成されております。鑑賞教材に写真や絵が多く使用されていて、視覚からも感じ取りやすくなっております。教科書の裏面をご覧ください。左下にカラーユニバーサルデザインのマークが記載されております。個人差を問わずより多くの人に見やすいように工夫がされております。次に「人権の取り扱い」ですが、教出では、音楽史の学習や挿絵において、女性のイラストや写真を多く取り上げています。1の教科書の巻頭に特徴が出ております。また、「希望という名の花」を作詞作曲した山崎朋子さんの曲や「君と歩こう」の梅野知子さんの曲の紹介などが特徴的です。次に「内容の程度」ですが、教芸の特徴としましては、巻頭の目次の次のページをご覧ください。右下の部分に「学習の窓口」として明確に示されております。各単元の上部にその関連が位置付けられております。また、教科書に直接書き込めるワークシートが編成されており、音楽の基礎的な理解を深めることができます。また、教出におきましても、「音のスケッチ」のワークシートのページが設けられております。器楽を除く各教科書の中ほどをご覧ください。その内容も複数ページに渡るなど内容の深まりができるように工夫されております。次に「組織配列」です。教芸において、各冊子の目次のページに「ここがわかれば Grade up!」というコラムが配列されております。学習目標や学習活動文とコラムがされており、共通事項と関連付けながら、より具体的な観点に基づいた学習ができるように工夫されております。次に、教出でございますが、特徴的なものとして、2・3下P61をご覧ください。音楽史の取り扱いは、時代年表だけでなく、作曲家名表も別にあり、わかりやすく配列されております。また、別の鑑賞教材でも使いやすく、整理しやすくなっております。次に「創意工夫」ですが、各者ともユニバーサルデザインを意識した生徒が学びやすい紙面づくりに努めています。教芸の特徴としましては1の教科書口絵3をご覧ください。「静けさと日本の音」として、生活の中にある音楽を、授業で学習する音楽と関連づけることで、生徒の興味・関心を高める工夫がされております。また、鑑賞教材では、感じ取った良さをプレゼンテーションする活動ができるように工夫するなど、表現活動についても横断的に学習できるように配列されております。次に「補充的な学習、発展的な学習」ですが、各者とも生徒の関心を

高めるような補充的な内容や発展的な内容が目次ページの「発展」マークで取り扱われております。次に教出でございますが、巻末にある合唱曲の選曲がよく、充実しております。また、各教科書の目次のページをご覧ください。いずれも右側のページに「let's sing!」「let's try!」の項目がございます。こちらは補充的・発展的な学習活動ができるように工夫されております。最後に「幼・小・中一貫教育の観点から」ですが、教芸は、生徒の発達段階に応じて、合唱の部類が増え、より高度な合唱ができるように工夫されております。また、器楽の教科書には、親しみのある曲が沢山掲載されており、小中一貫教育の観点で考えると非常に指導しやすくなっています。次に教出でございますが、全体を通じて、小学校からの学習の積み重ねと系統性が考慮されております。以上、よろしくご検討の程、願致します。

三宅委員長： それでは、何かご意見がある方、いらっしゃいますでしょうか。

田中委員： 基本的な質問ですが、教科書が2・3上と2・3下に分かれておりますが、これは何か意味があるのでしょうか。

三宅委員長： 場合によっては主に上が2年生、下を3年生が使っています。もちろん前後することもあると思います。もちろん、1年生は小学校からのつながりを考えていますね。器楽においては、1冊で踏襲されています。進み具合によってはアンサンブルや合唱に使うような器具について、3年間に渡って学習できるようになっていると推察されます。先ほどの、説明にもありましたが、教芸の場合、目次以外に学習マップがあって、先生だけでなく子どもたちにとっても、これから何を勉強していくのか計画がたてやすくわかりやすいのではないのでしょうか。確認ですが、器楽と一般はセットにして採択しなければならないのですね。

事務局： 選定委員会の答申では運用上、一般と器楽を同じにして進めておりました。

三宅委員長： 教芸の器楽のところ、太鼓以外に打楽器がいろいろ紹介されています。P46からカスタネットやタンバリン、シンバル等全般について紹介されているのは教芸だけなのが特徴的です。篠笛については、教出に横笛の作り方として載っている。このあたりは大変興味深いです。

西委員： 教出のほうはアルトリコーダーの指使いがわかりやすく載っているの、参考にしやすいでしょう。逆に教芸は音域について示されているのが特徴的です。あと、アルトリコーダーのアンサンブルは教芸のほうがたくさんあり、教出はどちらかというと、尺八や琴が多い。器楽の教科書としては、教芸を薦めますね。内容も教芸は段階的に難しくなるので、子どもらの理解もしやすいのではないのでしょうか。音符や旋律など細かなことまで分らなくても、ある程度知っていれば、楽譜を見たときに合奏や合唱の楽しさが増すので教芸を薦めます。ただ、一般では教出の音のスケッチでリズム、ラップなどがあります。今はリズムで楽しむ音楽も増えてきています。リズムアンサンブル2年生下のP40あたりからCMソングの作り方やレツトライでたくさん紹介されています。音楽を通して気持ちが落ち着いてくるなど、音楽があるだけでその場が和んだりするなど精神的な効果があることが紹介されています。一般については教出が優れているように思います。質問ですが、中学校ではマイバラードをよく歌われていますが、教出には載っていません。

しかし、教芸には載っています。柏原市ではマイバラードは必ず歌うという決まりがあるわけではないのですが。

事務局： 必ずマイバラードが載っている教科書が採択されているとは限りません。

三宅委員長： 鑑賞する部分は教出の方が優れていますね。

吉原教育長： 静けさと鐘の音を紹介しているのが印象的です。私たちの暮らしの中で音楽を聴いて癒される。現在は教出。以前は教芸。それぞれが学校現場では使い慣れています。

甲乙つけがたいですね。印象的には教芸がクラシック音楽に重点を置いているようにも感じます。

三宅委員長： 器楽の場合、学校ではどの程度のところまで教えているのでしょうか。

事務局： 中学校では主にギターを用いることが多いです。

三宅委員長： 器楽の中でもギターの指使いなどが詳しく紹介されている方が子どもたちにとってはわかりやすいのではないのでしょうか。

山崎委員： 教芸の思春期に係る教え方が丁寧に掲載されていますね。

三宅委員長： 声変わりの合唱、パートについての工夫がそれぞれされています。いろんな意見もあると思いますが、器楽と一般を合わせて、挙手によって決めてもよろしいでしょうか。

田中委員： 音楽が苦手な子にとっては教出。得意な子にとっては教芸が良いと思うが、教芸がよいと思います。

三宅委員長： それでは、挙手をお願いします。

【2者について、挙手】

三宅委員長： それでは、音楽については挙手多数の「教芸」に決めさせていただきます。

それでは、「社会（公民）」についての説明をお願いします。

事務局： それでは社会科（公民）について説明いたします。公民につきましても、東京書籍、教育出版、清水書院、帝国書院、日本文教出版、自由社、育鵬社、全部で7者でございます。まず、「目標、内容について」ですが、7者とも社会科の目標達成のための適切な内容になっており、題材や教材の内容が明確に示されています。また、選挙権年齢が20歳から18歳に引き下げられましたので、お手元の教科書には20歳と記載されておりますが、来年4月には各者修正をして発行をする。とすることを確認しております。日文は、社会事象を様々な立場からの視点に立って解説しており、多面的、多角的な視野を養うことができるよう、工夫されています。P31、P75をご覧ください。各单元だけでなく、各編、各章ごとに「何を目標にし、何を学ぶ章なのか」がはっきりと明記されております。また、帝国、教出においては、各单元に「学習課題」と色をつけ、その日の学習の課題を分かりやすく明記しています。次に「人権の取り扱い」ですが、7者とも人権を尊重する観点からどの発行者も適切に示されています。東書のP46、P56をご覧ください。東書ではアイヌ民族・沖縄・平和・路上喫煙の禁止等、それらの解決に取り組む中学生や高校生などの、同世代の子どもの姿を多くとりあげています。また、「ちがいのちがい（P34、P68）」を掲載し、人権を日常生活に引きつけて理解できるようにしています。同じように育鵬社・清水においても、アイヌ民族のことについて掲載しています。

次に内容の程度ですが、7者とも各学年の目標を達成するように配慮されています。日文は、身近な例が多く、将来の社会生活をイメージできるようになっており、P111、P116にありますよう、裁判員制度にからめて、ディベートを行うアクティビティがあり、体験をしながら単元内容を発展し深めることができます。帝国は、教育基本法との関連づけで、憲法や人権の学習を通して、きまりを守る大切さや、人権の意義を理解し、様々な具体例を通して、尊重する態度を養うように示されています。自由社は、芸術や宗教の意味を深く学べるよう、図や絵に工夫がみられます。次に「組織、配列」ですが、7者とも学習を効果的に進めることができるように見開き2ページで1時間の授業を構成しています。清水では、各本文ページを通じ、左右に資料を配置し、本文を中央にするなど資料と本文が整理されて見やすい配列になっています。また、最終のページで「現代の動き（年表）」を掲載し、日本と世界の時代の流れが比べられるようになっています。教出では、一貫した写真・グラフ・振り返りの配列により見やすく工夫されています。次に「創意工夫」ですが、7者とも生徒の興味・関心を高める工夫がなされています。日文では、P124、P176にありますように、抽象的な社会事象を、中学生にも分かるレベルの話に置き換えたマンガなどが随所に見られます。育鵬社では、新聞記事を多く掲載しており、社会の諸問題に対して着目しやすいよう工夫されています。次に補充的な学習・発展的な学習ですが、7者とも個に応じた指導の充実に向けて配慮されており、帝国では、P41、P76のように、「クローズアップ」が設置されており、自分の生活に関係のある、身近なこととしてとらえられるように、具体事例から学習されるように工夫されています。自由社は、補充学習として「ミニ知識」という欄を設け、発展学習として「もっと知りたい」というシリーズを設けて、興味を持たせる工夫をしています。最後に幼小中一貫教育の観点からでございます。日文では、P121、P177のように、連携している内容や、一貫教育のポイント部分には、矢印の記号と簡単な解説を掲載し、一目みてわかるように工夫がされています。東書は、P33、P71のように、各章のはじめに小学校で出てきた単語を、キーワードとして紹介をし、関連付けをしています。説明は以上でございます。

三宅委員長： 少し絞り込みをしてからおこなっていきたいのですが、いかがでしょうか。中学生という義務教育で学習させる中、様々な考え方を吸収するのが中学生だと思います。偏った内容はあまりふさわしくありませんね。一方的な事象を取り上げているのはなく、公平な立場で表現しなければいけないと思います。自由社は、国家・天皇の権限を強調しているように思います。育鵬社は、中身は大きく変わらないが、国家・天皇の権限が大きく出ているように思います。よって2者は除外した方がよいと思うのですが、みなさんのご意見はいかがでしょうか。

吉原教育長： 育鵬社は北朝鮮の拉致事件を見開きで扱い、自由社は自衛隊の意義を強調しているように思います。様々な意見がある中で、歴史の教科書の選定でもあったが、初めて公民に触れる子どもが両方の意見に触れられるように、2者は除外した方がよいように思います。

田中委員： 中学生には自分自身で判断できる力をつけて欲しいと思います。偏った意見、一方的な考え方を強調している2者は私も除いた方がよいと思います。

山崎委員： 2者は、日本国憲法はGHQの押しつけ、と表現しています。そればかりではないという説もあります。読みもの資料としては良いと思いますが、教科書としては少し無理があるように思います。

三宅委員長： 自衛隊について違憲・合憲の二つの表記をしているのが日文・帝国・東書で、自由社はコラムで強調して、我が国の安全保障の課題として、「自衛隊は軍隊ではない」と表現しています。今回の選考から2者は外したいのですがいかがでしょうか。

委員全員： (了承)

三宅委員長： それでは、5者で選定していくのですが、ご意見はございますか。各者、学習課題はていねいに設定しています。日文は細かい設定がされていて、生徒にとって学習の整理がしやすいと思います。P100やP103のように下段に歴史や他教科、小学校との連携が矢印で示されています。

山崎委員： 清水は歴史同様、教科書が小さいので、行間が狭くなり読みにくいと思います。公民とは何か？ということについての説明の文章を各者比べてみると、東書がすっきりしていて一番見やすいと思います。

三宅委員長： 清水は小判なためか、内容が少なくなっているのではないのでしょうか。資料を添付はしているのですが、表現が難しくなっています。おもしろい取組みはあるのですが。

田中委員： 集団的自衛権、情報モラルに着目してみましたが、東書・日文・教出の順でよいと思います。帝国・清水はあまり掲載されていません。いじめの問題もあるので、情報モラルはきちんと取り扱ってほしいですね。

三宅委員長： クーリングオフを書いているのは、本文には東書・帝国が詳しいですね。帝国は解説でも書いています。日文は横の説明で記載されています。

山崎委員： 子どもたちにつけさせたい力のひとつに話し合いがあるのですが、日文にはブレインストーミング・ロールプレイ・議論・ディベートなど様々な手法があります。帝国は1番多くて、KJ法・ロールプレイ・ディスカッション・ディベート・企業の企画書の作り方がある。教出はディベート・シュミレーション・プレゼン・ポスターセッション、東書はあまり内容がない感じだが…。

三宅委員長： いろんな話の中で、清水が子どもにとって扱いが難しそうに思います。日文、帝国という意見がみなさん多いようですが。

西委員： 帝国は左側にクローズアップがあり、右の羅針盤があり、わかりやすいですね。気になったのが、日文のレポート課題。まとめにも力をつけてほしいですね。

三宅委員長： レポートは、東書にもページ数が少ないがありますね。実際にレポートするだけでなく、プレゼンをする、言語活動には必要な部分ですね。

山崎委員： レポートの作成でいくと日文がいいですね。教出は「未来のわたしとの約束」がありますが、東書もありますが少し見にくいと思うのですが。

三宅委員長： 領土の問題に対しての表記については、各者似ていますね。歴史的事実のみを表記しているものと、解決に向けてと取り上げているところに少し違いがありますが、帝国は解決に向けての取組みを書いています。日文はP148の「明日に向かって」で将

来のハローワークという形で将来の自分を考えるページがあります。

三宅委員長： そろそろまとめていきたいのですが。今のところ、日文の意見が多いようですが、帝国という意見もあります。この2者から選んでよろしいでしょうか。それでは挙手をお願いします。

【2者について、挙手】

三宅委員長： それでは社会科（公民）については、挙手多数の「日文」ということで決めさせていただきます。それでは、「美術」についての説明をお願いします。

事務局： 美術について説明させていただきます。美術につきましては、光村図書、日本文教出版、開隆堂の3者でございます。まず、「目標、内容の取扱い」についてですが、特徴的なものとして、日文では、唯一3分冊構成となっており、学年ごとに、生徒自らの成長や発達、関心や意欲に即して展開できるような題材になるように配慮されております。光村は、巻頭や「特別展示室」に配されている詩が、生徒が美術に親しみ、共感を抱くために有効になっているという意見がありました。次に「人権の取扱い」ですが、各者で人権に対する配慮が見られます。特徴的なものとしては、日文では、鑑賞の観点について書かれた箇所が「POINT」として題材ごとに丁寧に記述されており、生徒たちが作品を鑑賞し合い、互いの考えや理解を深めていく時に、上手くヒントが得られるようにできております。光村についてですが、2・3年の分野P56をご覧ください。障がいのある人が無理なく社会生活を営めるようにユニバーサルデザインについての情報を掲載し、P70～P73では暮らしや夢についても関連させるなど、特徴が出ております。開隆堂は表紙の「岡本太郎の平和と美術」に特徴が表れておりますように、全体をとおして身近な題材を多く紹介することで、日常生活を豊かな気持ちを持って過ごすことができるよう情報がまとめられており、各題材の取り上げなど、人権に配慮した構成が見えます。次に「内容の程度」ですが、日文では、各学年に合った題材が的確に掲載されており、身近な生活の中に美しさを感じ取る題材から有名な作家の技法を用いた作品づくりなど、幅広い分野での美術の知識が記述されております。その特徴は、2・3上P23にあらわれております。1年生で取り扱われた書道とは違い、水墨画の技法を用いる方法などが記述されております。開隆堂は単元がP6～P8の大きな流れのある教材も多く、学んだことをすぐ活かすことができることは、生徒にとって意欲の高まりが期待できます。また、全体をとおして生徒作品が大きくレイアウトされ、色彩豊かで創作意欲も湧く工夫がされております。次に「組織・配列」です。特徴として、日文では、目次のページをご覧ください。4つの観点に関してマークを用いて分かり易く理解することができる工夫がなされております。また、全体をとおして資料を大きく載せることでビジュアル的にも生徒を引き付ける工夫がされております。光村についてですが、各ページの上部にありますように、学習の中心となる題材は、「表現中心の題材」と「鑑賞中心の題材」に分かれバランスや配列が学習しやすいように配慮されており、分かり易くまとめられた構成となっております。開隆堂は制作風景が多く掲載され、具体的な作品例が多く掲載されているので、生徒が作品づくりに取り組む際にイメージしやすいように工夫がされております。次に「創意工夫」ですが、日文では、2・3上の分野で先程の水墨画の説明の際に例にあげましたが、原寸大の浮世絵

版面を掲載し、紙質も工夫され実物を鑑賞する喜びを感じさせるように工夫されております。また、生徒作品に作者の生徒からのコメントが載っており、生徒が題材に取り組む時のヒントになります。光村についてですが、マーク表示では、「生活に活かそう」マークがとても良く、美術は何の役に立つかわからず創作意欲をなくしている生徒も多いので、生活に生きることを学ぶこともできるように工夫されております。開隆堂は、先程も申しましたが、制作風景が多く掲載され、それらを説明し、生徒たちに伝えることで、新たな気付きや発見を与え、より授業を深めていけるように配慮されております。次に「補充的な学習・発展的な学習」についてですが、日文では、各巻末の後半に学習に役立つテクニックなどの資料がまとめて紹介され、興味を持って学習を進めることができるように配慮され、制作・発表・鑑賞などのあらゆる場面で活用できるように配慮されております。次に光村についてですが、生徒自らが必要な時に発想・構成のヒントを探したり、技法や用具の使い方などを参考にしたりできるように、基礎的な技法や資料を「美術1」の巻末にまとめて掲載しています。学年が上がっても「美術1」を資料として引き続き参照することで、自主的に学習を深めることを可能としています。最後に「幼小中一貫教育の観点」からですが、日文では、1年生の教科書のP6・7をご覧ください。小学校での学習内容を踏まえ、美術の内容に抵抗なく入れるように、図画工作科で関連づけるページが設けられております。光村についてですが、「美術1」の冒頭のオリエンテーションでは、幼少期の表現から図画工作科での学習を振り返るとともに、中学校での美術で学ぶ内容を概観し、見通しを持って美術科の学習に入れるように配慮されております。開隆堂は、美術1の巻頭「美術ってなんだろう？」という見開きページをご覧ください。その中で、美術科への移行を自然にしていこうという工夫が感じられます。以上でございます。ご審議お願い致します。

三宅委員長： それでは、みなさんのご意見をお願い致します。

吉原教育長： 2分冊と3分冊に分かれていることは、問題ございませんでしょうか。

事務局： 学習指導要領に合わせているものと思われれます。各学年の目標及び内容では、1年と2年及び3年と分かれております。程度の具合からよりますと、2・3年上は主に2年。下は3年生で使うことが多いかと思えます。

吉原教育長： 2年生に進級時に2・3年上下をまとめて生徒に渡す形になると思うが、一緒に渡して、3年進級時に失くしてしまったりしないでしょうか。また、教科書はどれくらいの頻度で使用されるものなのでしょうか。また、授業時数は週に何回程度あり、活用するものなのでしょうか。

事務局： 1年生は週に2時間程度、2・3年生は週に1時間となっております。

吉原教育長： 他の教科では、教科書は概ね順番に学習していくが、美術や音楽の場合、順番に全部やっていると、実技をしている時間がなくなってしまうのではないのでしょうか。やはり、印象で子どもたちに美術に興味をもってもらうという役割の使い方になるでしょうか。

三宅委員長： 表現と鑑賞にはっきりとわかれて、しかも細かなサブタイトルも扱われていますね。実際には教科書を参考にして扱う場合が多いでしょう。また、日文は音楽と一緒に

で3分冊構成となっていますね。

山崎委員：教科書を使って授業を行うと考えて、すべて自主教材で行うというわけにはいかないと思うので、教科書を使うと考えた場合に日文は題材ごとに学びのねらいとして4つの分野でポイントが示されているし、日文が一番わかりやすいかと思います。また、どの作品にも作者の言葉があり、作品作りの希望なども本当にわかりやすくなっています。ずいぶん大きく贅沢な作りになってきていますね。日文の千手観音などは圧巻です。

西委員：自分の子どもが、教科書に載ってある作品を持って帰ってきたことを思い出しました。教科書を見ていると引き込まれていきます。美術館に行ったかのようにどの教科書も立派な作りになっていますね。光村の谷川俊太郎の詩の取り扱いは素晴らしいです。2・3年の最初に一日をとおして日常生活にある美術が紹介されている。本当に身近なところで、美術と触れ合っているのだと感ずることが出来ます。絵が下手だから嫌いではなく、美術に触れることで好きになってほしい教科だと思えます。また、日文は3冊に分冊されているが、大きい本なのできっと忘れることはないと思います。中に掲載されてあるものは迫力もあり、良いものであると感じます。

三宅委員長：日文は遠近法についても詳しく取り上げています。日文の内容について評価が高いようだが、いかがでしょうか。

委員全員：（異議等なし）

三宅委員長：それでは、美術については、「日文」に決めさせていただきます。それでは、「保健体育」についての説明をお願いします。

事務局：それでは、保健体育について説明いたします。保健体育は学研、東京書籍、大修館書店、大日本図書の4者です。「目標・内容の取扱い」についてです。学研は、口絵で健康・スポーツに興味・関心を持つように示されています。また、P52をご覧ください。生徒たちに身近な健康課題である熱中症について取り扱っていることで、自らの健康管理を適切に管理し、改善しようとする態度の育成に配慮されています。東書は、P6をご覧ください。「今日の学習」として本時の目標が明確に示されており、学習の見通しを立てて授業を進めることが出来ます。また「やってみよう」が導入として利用できるような内容になっております。また、口絵をご覧ください。効果的に活用し、キャリア教育やスポーツの大切さに気づくような配慮があります。大修館は、口絵をご覧ください。オリンピック・パラリンピックの内容の掲載や著名人のスポーツライフの掲載を通して健康・生涯スポーツに興味・関心を持つように示されています。大日本は、P23をご覧ください。「学習を活かして」を設け、授業の最後に本時に学んだ内容を、豊かな実践に向けて活用できるようになっており、自らの健康を適切に管理できる力の育成に配慮されています。次は、「人権の取扱い」についてです。学研は、P158をご覧ください。国際的なスポーツ大会が世界の人々と交流する場であることや、平和な世界を築くことなどが記載されており、スポーツが世界の人々を結びつける重要な役割を担っていることに気づけるように配慮されています。東書は、P156をご覧ください。国際的なスポーツ大会が国際交流、多様な文化や価値観の交流につながることを理解できるよう配慮されています。大修館は、P38をご覧ください。スポーツは「世界の共通語」となるという視点で

スポーツは国際交流に関与し、国境を越えて人々を結びつける力があることを理解できるように配慮されています。大日本は、P 36をご覧ください。スポーツが人々を結びつける文化的な働きをもつことや、オリンピックの理念を紹介し、公正に取り組む態度や協力する大切さを理解できるように配慮されています。次は、「内容の程度について」です。学研は、P 9をご覧ください。各章のはじめに、学習内容と関連付けられた職業情報が紹介されており、キャリア教育にもつながるよう配慮されています。また、P 92～93をご覧ください。情報サプリ「コラム」を設け、実生活に活かせる内容になっており、理解の深化につながるよう配慮されています。東書は、教科書の幅が広がり、全体的に見やすくなっています。口絵をご覧ください。有名なスポーツ選手のコメントを起用し、興味・関心を抱きやすい内容になっています。大修館は、全体的に図や挿絵がとてりリアルに描かれていて具体的にイメージしやすくなっています。また、P 79をご覧ください。「コラム」として、現代的な健康課題、話題が掲載されており、興味・関心を引き出すような内容になっています。大日本は、口絵をご覧ください。有名なスポーツ選手の写真を載せ、スポーツや体育に興味・関心もつように工夫されています。次は「組織・配列」についてです。学研は、P 40をご覧ください。「ウォームアップ」を設け、導入しやすく、興味・関心を高める内容が示されています。東書は、目次をご覧ください。体育分野と保健分野を分けずに、各学年に学ぶ内容がまとまっています。大修館は、P 4をご覧ください。各単元に「Question」を設け、学ぶ内容の導入として興味付けをし、「キーワード」を設け、重要語句を確認しながら本題に入ることができるように配慮されています。大日本は、P 4をご覧ください。章のはじめのページに、学習課題が示されており、その課題を受けての活用の記載や、見通しが立てられるように配慮されています。「創意工夫について」です。学研は、P 111をご覧ください。「学習の目標」が示されており、学習の見通しが立てやすくなっています。P 17をご覧ください。肉眼では見えないものを拡大して写真で掲載し、視覚的に理解しやすくしており、写真を効果的に活用しています。東書は、全体的にユニバーサルデザインフォントが使用され、文字が見やすくなっています。また、P 8、P 9をご覧ください。「やってみよう」「考えてみよう」など思考力を高めるための工夫があります。大修館は、P 15をご覧ください。欄外に「URL」を設け、その項目に関連したインターネットのページが紹介されていて、自主的な学習につなげるよう配慮されています。大日本は、「P 40をご覧ください。「ミニ情報」で学習に関連した情報を豆知識として紹介することで、興味づけし、自発的に知識を生活に活用できるように工夫されています。「補充的な学習・発展的な学習について」です。学研は、P 32をご覧ください。「章のまとめ」として確認問題があり、学習の振り返りや自主的に学習する態度の育成に配慮されています。東書は、P 30をご覧ください。「確認問題」「活用の問題」があり、発展的に学習の振り返りができるようになっています。P 28をご覧ください。「章末資料」では、学習をさらに深化させる内容が記載されています。各ページの下「Q&A」では、楽しみながら補充的な学習に配慮されています。大修館は、P 29をご覧ください。「Challenge」では、学習したことをより深めることのできる課題が掲載されています。P 30をご覧ください。章末の「学習のまとめ」では、学習の振り返りができるように配慮

されています。大日本は、P 3 2をご覧ください。章末に「学習のまとめ」があります。重要な語句のまとめや要点が記載されており、復習・確認ができるよう配慮されています。」最後に「幼小中一貫教育の観点について」です。学研、東書は、各章のはじめのページには「小学校で学習したこと」「高校で学習すること」が掲載されており、小中高の関連付けをし、学習の見通しを立てることができるようになっていきます。大修館は、口絵のP 3をご覧ください。口絵で幼い頃のスポーツの捉え方を示しています。以上で説明をおわります。ご審議お願いいたします。

三宅委員長： ありがとうございます。4者の保健体育について説明いただきました。テキストは、体育編、保健編でまとめてあるのと、学年でまとめてあるものに分かれています。東書だけが学年でまとめています。何かご意見ございますでしょうか。

山崎委員： 学年ごとに分かれている方が使いやすいのですか？

事務局： 使いやすさはあると思います。

三宅委員長： 内容によっては順番にあがっていく、ステップアップの点では、学年ごとに分かれているほうがいいかなとも思いますが、学年が分かれていなくても、使い分けはできると思います。ところで、教科書の表紙についてですが、大日本は男女平等の観点において、ふさわしくない点がみられます。

山崎委員： そうですね。中学校では、性教育もありますし。

田中委員： そうですね。

三宅委員長： もうひとつは、大修館のP 4 1を見てください。心身の機能の発達と心の健康のところで、上の写真は問題ありませんが、下の写真を見てください。女の子が学校の廊下で何か持って誰か待っています。これは誰かにプレゼントしようとする行為であることが見てとれます。学校の中での行為として不適切であり、それを写真として載せることはいかがなものかと思えます。

山崎委員： プレゼントするのは女の子という発想もいかがなものかと思えます。

三宅委員長： やはり心の問題を扱う教科でもあるので、このような点があると教科書として使用しにくいポイントになると思われます。

田中委員： 大修館のP 1 3 5をご覧ください。学校からの意見としても挙げられていますが、薬物乱用の事例のところで、たった1年の乱用で入院とありますが、たった1回ですよね。

三宅委員長： たった1回ですよね。表現としてふさわしくないのではないのでしょうか。

田中委員： 学校の意見では、ラッカーやシンナーなどの薬物の名前がどんどん出てきているとのことです。

三宅委員長： 比較的身近にあって、シンナーなど買おうと思えばいつでも買えるようなものが、現実の名前で挙げているというのは、いかがなものかと思えます。シンナーに関しては大修館だけではないですよね。

田中委員： 例えば、学研は、P 1 0 4をご覧ください。先程のようなことはなく、比較的知っていても手に入りやすい薬物の名前のみが記載されています。

三宅委員長： そうですね。

田中委員 : 東書はP 1 2 6をご覧ください。シンナーが記載されています。

三宅委員長 : 大日本もシンナーが記載されています。

山崎委員 : ラッカーやシンナーは子どもたちもよく知っているが、ボンドでいけるのか
ということは教えたくないという意見が出ていました。

三宅委員長 : 続いて、熱中症についてですが、説明や手当等については1者だけでなく、
各者とも取りあげています。飲酒のところでは、実際に飲む写真を使って説明しているの
が、学研と東書なのですが、MR I の図が東書の場合は写真が少し不鮮明で見にくいです
が、学研は、はっきりしていて違いがわかりやすいです。また性教育のところでは、性と
ホルモンの関係等図を使ってわかりやすく書いているのは東書だと思います。学研は本文
の説明のみですね。

山崎委員 : 保健体育でノートを持たせますか。

事務局 : 学校によって形式は異なりますが。ワークを購入して活用している学校もご
ざいます。

山崎委員 : そうですね。先程の説明の中で、学研と東書を比べて見ていたのですが、本
当によくできているなどすごいなと思いました。ねらいから始まって、学研でいいですよと、
学習の目標、キーワード、ウォームアップ、本文、エクササイズ、活用しよう、さらには
用語の説明、コラム、情報サプリーなどここまで丁寧にするかというくらい保健体育でもき
め細かな内容になっていますね。東書も似たような形ですので、すごいなと思います。保
健体育でノートを持たせないのであれば、書き込みができるような教科書がいいのかなと
も思いましたが、そうでもないですかね。

三宅委員長 : 心肺蘇生法、AEDの使い方ほどの者にも記載がありますが、東書は写真等
が大きくて見やすいと思います。実際に中学校でAEDの使い方を教えたりしますか？

事務局 : 教えます。

三宅委員長 : 先生方だけでなく生徒にもある程度人形使ってやらせたりしますか？

事務局 : 簡易のものを使います。

三宅委員長 : いかかでしょうか。表紙や中身の表記、また掲載写真等で、教科書として不
適切と思われる部分があるということで、大日本と大修館ははずさせていただいてよろし
いでしょうか。

委員全員 : (了承)

三宅委員長 : それでは、学研と東書の2者で選定をおこないますが、今色々なお話を聞いて
いると、学研のほうがよくお話に出てきていると思いますが、いかがでしょうか。

山崎委員 : 学校の意見として、書き込める教科書がいいとのことで、そういう意味では
東書のほうがよいと思われれます。

西委員 : 食育のところで、朝食のことが書かれているところが気になるのですが、学
研はP 9 1、東書ではP 1 1 2～P 1 1 3に朝食を抜いた場合にどうなるか、また朝食の
意味や大切さを考えさせるところがあってよいと思います。また、学研では健康、休養、
睡眠の大切さを取りあげ、コラムで携帯・スマートフォンなどやりすぎると疲れるなど、健
康管理を重視している点がよいと思われれます。事故、特に中学生が交通手段としてよく使

う特に自転車ですが、小学校では自転車の乗り方、スキルコンテストがあったり、警察の方の指導の下、自転車の乗り方等について講習会があったりするのですが、中学校では、自転車についての講習会等がないと思います。いい加減な乗り方になったりとか、音楽聞きながら乗ったりなどが目につくことが多いので、自転車の乗り方や危険性の点についての記載も気になります。

三宅委員長： それは両者とも記載がありますね。

山崎委員： 東書は自転車に関して説明や写真など記載が豊富です。書き込みもできますしね。

西委員： そうですね。

三宅委員長： では、このあたりでそろそろ教科書の決定をさせていただきたいのですが、挙手でいきますので、よろしく願いいたします。東書がよいと思われる方は挙手を願います。

委員全員： (挙手)

三宅委員長： それでは、保健体育については、「東書」に決めさせていただきます。それでは、「技術・家庭(技術)」についての説明をお願いします。

事務局： 続きまして技術について説明申し上げます。技術につきましては、3者、開隆堂・教育図書・東京書籍でございます。まず、「目標、内容」についてですが、3者とも実践的・体験的学習を通して基礎的・基本的な知識及び技術の定着ができるように配慮されています。開隆堂では、各内容(A B C D)の最後に環境の視点から技術の評価・活用に関わる学習項目のページが設けられています。随所に具体例を掲載して技術と産業とのかかわりについて理解が深まるようになっています。東書では、創意工夫し、未来の生活を創造する力が身につく内容に力を入れています。生活に生かす・活用するという面に配慮されています(1~4の各編の終わりに「~に生かそう」)。教図では、生徒が「学びたい」「つくりたい」と思うような実習題材が豊富で、体験的な学習が多いです。次に、「人権の取り扱い」についてですが、3者とも「安全マーク」などを用いてわかりやすく、生徒の作業中の安全確保や事故防止について配慮されています。なかでも東書では「安全」「衛生」「ポイント」マーク、教図では「コツ」「安全」「注意」マークを使い分け、それぞれの作業に必要な注意点が記述されています。開隆堂では『安全確保・事故防止』については「安全」マークのみですが、大きく見やすく記載されています。他には開隆堂では情報モラル、個人情報・プライバシー・肖像権の保護などの記述が充実しています。(P 196~P 199)次に、「内容の程度」についてです。3者とも第1章の前に「ガイダンス」「序章」として、技術分野で学ぶことや技術と生活とのかかわりなどが記述されていますが、開隆堂(P 14~P 17)と東書(P 2~P 5)では、実習の進め方まで丁寧に解説があります。教図は特に、ものづくりに関する技能では作業途中の写真が多く用いられ、作業工程のイメージがとらえやすいよう配慮されています。東書の「技術の匠」(P 13、P 21)は製造現場で働く人を紹介することで勤労観の育成や責任感・倫理観の育成を育み、生徒の興味関心を喚起することができると思われます。次に「組織・配列」についてですが、3者とも学習の流れに合わせて系統的に配列されています。また、生徒が

興味・関心をもって学習できるような写真の配置、構成がなされています。次に「創意工夫」についてですが、開隆堂、東書では、必要に応じて「リンク」「資料」「参考」「環境」等さまざまなマークが適切に用いられ、教師の指導のしやすさ、生徒の理解の助けをとともに高めております。また、東書ではページの爪を右に設けて検索性を高めています。開隆堂、東書はページ下部に「豆知識」「Q & A」などを設けて、雑学的なアプローチから生徒の興味・関心を喚起できるようになっています。教図では、先ほども申しましたように、実習において教科書を見ながら実際に作ることができるよう、すべての製作工程をていねいにわかりやすく追っています。次に、「補充的な学習・発展的な学習」についてですが、3者とも個に応じて学習を定着させるための基礎基本的な学習や補充的な学習、また、個に応じて学習を広め、深めるための発展的な学習や問題解決的な学習について「発展」のマークやページを設けるなどの配慮があります。開隆堂、東書では学習のまとめを通して、生活のどの場面に生かしていくのが学習できるように配慮されています。最後に「幼小中一貫教育の観点から」についてですが、開隆堂では小学校での学習内容と技術分野での学習内容の関連を示し、つながりをもって学習できるようになっています。また、適宜「リンク」マークにより、他学年、他教科との関連事項を明記することで理解を促しています。東京書籍でも適宜、「リンク」「他教科」「小学校」マークを使って、学習内容に関連した他教科、他学年の学習内容を示しています。説明は以上です。ご審議よろしく願いいたします。

三宅委員長： ありがとうございます。3者について審議したいと思います。委員の方々、ご意見をお願いいたします。いずれの教科書も、実際に「モノづくり」をする、設計図を引く、といったところから作っているのですが、説明でもありましたが、教育図書の場合には作業の手先のところを強調して写真を載せてあるなど、作業がわかりやすい、やりやすいといった説明がありました。

山崎委員： 1時間の授業の流れなのですが、東書も開隆堂も似たような流れですね。見開き2ページで1時間。例えば開隆堂では学習の目標があって、考えてみよう・話し合ってみようなどの導入部分があって、本文、参考、振り返り、豆知識があって…東書も似たような感じなのですが…教育図書はそういうのが一切なく、大変すっきりとした教科書で、「先生にお任せします・どうぞ授業してください」といった感じになっているので、ここがちょっと違うところですね。1時間1時間の授業を各先生方が作っていかねばならないですね。

三宅委員長： 確かにそういう意味では、かなり先生の力によるところが大きいですね。教科書ですから、子どもたちが見て扱いやすいということが大事なポイントになってくると思います。ただ学校で見ているだけではなくて、家に帰って、特に木工だとか、夏休みの宿題などもあるかと思うのですが、そういった点でも、目標が細かく指示があるのも、一つのポイントかなと思います。

山崎委員： もう一点、情報モラルの話も出ていましたので、東書「情報を安全に利用しよう」が6ページ分、開隆堂は「情報モラルと知的財産」が6ページ、教育図書の「情報モラル」で2ページしか載っていない。実習例も数えたが、教育図書は少ないです。選択

の範囲が狭いということになりますね。

三宅委員長： 前回の指導要領から取り上げられている「情報」は、カメラだとかビデオだとかそういったところも各者もちろん入っているが、「情報のモラル」といったこととの兼ね合いもあります。東書では部活の様子紹介とかそういうものをビデオで作り、データベースを作成するといった内容が紹介されています。山崎委員がおっしゃいましたが、目標があって、確認・振り返り、問題を含めて学んだあとの作業が内容的には多く、東書も開隆堂も同じようになっている。書き込みできる点も含めてご覧になってもらえたらいかがでしょうか。特に東書の場合には学習のまとめのところには、大切な用語が出てくる。「まとめ」という形で整理されているのはいいと思います。「植物の育成について」実習例がたくさん載っています。写真で見やすいのは、どちらかという東書かなという気がします。開隆堂も…。

山崎委員： 実習の量も東書の方が多いですね。

三宅委員長： そうですね。全体的に丁寧な気がする。

山崎委員： そんなことでいえば、「栽培暦」なども大きい分だけしっかり書けます。作物の数も多いですね。

吉原教育長： 今、技術の時間は何時間ですか？これだけの教科書をやろうとしたらすごく時間がかかりそうな気がします。できるだけ丁寧な教科書がいいのですが、これだけあればどこをどう教えていいのか…？

事務局： 週2時間です。

田中委員： 技術分野が広いから…うちの大学でも技術の免許を取ることができますが、ハードでなかなか取得できません。

西委員： こんなに幅広いとは…これと同じようなボリュームで家庭科もあります。

田中委員： 東書はリンクで他教科・小学校へと飛ばしています。範囲が広いですね。

三宅委員長： 実習は実際にはそんなにやらないのですよね。教科書の上で実習を体験する。

西委員： 製図はどの教科書が見やすいですか？どの学校も製図はしっかりとされていると思うのですが…。

三宅委員長： 開隆堂はカラーで書かれている違いはあります。製図にページを割いているのは東書ですね。

田中委員： 東書は「技術の扉 基礎技能」がとても丁寧ですね。

西委員： 東書は作業の写真に、女子の写っているものが多いですね。

三宅委員長： 写真はワイド版が有利ですね。どうでしょう。開隆堂か東書の話が多いのですが、この2冊できめさせてもらっていいでしょうか？

委員全員： (了承)

三宅委員長： それでは挙手できめさせてもらいます。

【2者について、挙手】

三宅委員長： それでは、技術については挙手多数の「東書」に決めさせていただきます。

それでは、「技術・家庭（家庭）」についての説明をお願いします。

事務局： それでは家庭について説明いたします。家庭につきましても、3者、開隆堂・

教育図書・東京書籍でございます。はじめに「目標・内容の取扱い」についてですが、東書は、配列が生徒の発達段階を考慮した構成になっています。問題解決的な学習の進め方がガイダンス（P 1 2～P 1 3）に取り上げられており、生活を創意工夫する力を伸ばす学習に取り組みやすいと思われます。開隆堂は「自立」「共生社会」を（P 2～P 5）めざすことを全編にわたって強調されています。また、それぞれの分野から、持続可能な社会（P 5 4、P 1 3 6）について丁寧に書かれていて指導がしやすいです。教育図書は各単元の最初に、「自立度チェック」「Q&A」を設けて、導入から興味関心を喚起しやすくなっています。次に「人権の取扱い」についてですが、3者とも、バリアフリー・ユニバーサルデザインの住環境についても、また、男女共同参画社会の実現に向けた内容について記載されております。とりわけ開隆堂は育児休業を取った男性のコメントを載せるなど（P 1 7）、充実しています。ただ、家族関係の変化の取り上げ方で、「両親の離婚」「里親委託」「児童養護施設」などの文言があり（P 5 2）、児童養護施設や児童自立支援施設の生徒が在籍する学校が3校ある本市での取扱いについては慎重さが求められます。「内容の程度」についてですが、東書は基礎的な学習の確認から発展的な学習の内容まで、幅広く取り上げられており、各校の実情に応じて使用することができます。また、生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能が確実に定着するように「基礎技能」ページが設けられています（P 5 2～P 5 7）。教育図書はどの分野も大変わかりやすく、想像し、工夫、イメージしやすくなっており、授業展開に幅が持てる内容の構成となっています。開隆堂は使用しているときにこんな写真があればいいなと思えるような写真が多いです。内容も濃く、具体的でわかりやすいです。「組織・配列」についてですが、東書は教科書サイズを大きくすることで、図表がすっきりと収まっており、見開き2ページに見やすく構成されています。また、資料等は巻頭や巻末にあるものが少なく、当該領域の資料として適切なページに配置されており、授業者にとっては扱いやすいと思われます。開隆堂は巻頭に大まかな目次が載っており、さらに各章の見開きに詳しい目次があり、学習の流れがわかりやすいです。教育図書は編の導入に「自立度チェック」（P 6、P 3 0）を設け、自分の生活のふりかえりができるようにしています。単元はじめには「目標」と「はじめの活動」、各単元末に「学習の振り返り」を設けています。「創意工夫」についてです。東書では、図や写真が適度に掲載されています。やや大きく表示されているので視覚的にインパクトがあり、生徒の興味関心を喚起しやすいと思われます。開隆堂は実習での作業の流れや手順、進め方を図式化して視覚的にわかりやすく表現し、見通しをもって学習に取り組むことができる工夫がされています。教育図書ではアニメやイラストなどを用いて学習の導入がしやすくなっています。内容も現代風の内容が多く、生徒の関心が得られやすいと思われます。「補充的な学習・発展的な学習」についてですが、3者とも「選択」や「発展」のページがしっかりと設けられており、また、いずれも具体的で考えやすく、取り組みやすい内容となっております。中でも東書は実践内容の選択肢が多く、各校の実情に応じた学習ができるようになっていきます。（調理実習36題材、布を用いた物の製作は約20題材）また、「プロに聞く！」（P 5 1、P 8 5）で学習内容に関連した職業に就く人のメッセージを紹介しており、発展的な学習に意欲的な生徒の興味関心にも応えられる内容

との意見があります。最後に「幼小中一貫教育の観点」についてですが、東書と教育図書では小学校家庭科の学習内容の振り返りを巻頭のガイダンスの中でしっかりと取り上げられており、中学校の学習へとつなげ、深めていく意識が高められます。説明は以上です。ご審議よろしくお願いたします。

三宅委員長： ありがとうございます。3者について審議したいと思います。開隆堂について説明がありましたが、家族関係に関する文章表現が、特に柏原市内では養護施設を抱える中で、表現がまずいという意見が出ています。他の教科書では記載がないので、少し問題になるかという気はします。

山崎委員： 里親制度で失敗して、児童自立支援施設に入ってしまった子とか、児童養護施設から一般校へ通っていて、そこで失敗して自立支援施設に入ってしまった子とか、現実にはそういう子がいるわけで、そんな子にとっては読みにくい内容だと思います。

三宅委員長： 教える側からもかなりしんどいですね。そういう意味で、ちょっと開隆堂のテキストは横に置かせてもらっていいでしょうか。

委員全員： (了承)

三宅委員長： あと、東書、教育図書について話し合いをお願いします。食品の保存と食中毒の防止について、東書は、表で細菌・ウイルスを取り上げて説明しています。表現は出てくるが、具体的にどんな菌とかは出てきていません。そういった違いが少しずつあります。調理器具一覧が教育図書にはまとめて載っています。東書にはありません。子どもたちが目にする、家にあるものは教科書に載ってなくても分かるだろうが、他の料理に使うものが一覧として出ているのはいいと思います。

山崎委員： 東書と教育図書では内容の配列が違いますね。現在使用中の開隆堂と違って大丈夫ですか。開隆堂に合わせた方がいいのでしょうか。

三宅委員長： 必ずしも合わせる必要はないのではないのでしょうか。切り替わるのは1年からです。確かに、食・衣服からの方が、1年生としては入っていきやすいのかもしれないですね。

西委員： 調理実習は1年だけでなく、2、3年でもありますよね。学年に応じたものをこの中からされているのですよね。東書のいいところですが、「マナー」についての記述があるので、ちょっとした気づきになると思います。

吉原教育長： 災害について考えると、どれだけ触れられているかという点、東書の方が丁寧ですね。オートロックマンションの入り方などもイラストではっきりとわかりやすいです。

田中委員： そう考えると、大きいというのは有利になりますね。見やすいし、ボリュームも増えます。

吉原教育長： 技術とセットではないけれど、マークの意味などは共通なので、一緒にしといたほうが使いやすいのではないのでしょうか。

三宅教育長： 出てきているのはやはり、東書の方が良いという意見が多いので、決めさせてもらっていいですか。

委員全員： (異議等なし)

三宅委員長： それでは、家庭については「東書」で、決めさせていただきます。それでは、「外国語（英語）」について説明をお願いします。

事務局： それでは英語について説明いたします。英語は光村図書、三省堂、学校図書、教育出版、東京書籍、開隆堂の6者です。まず、「目標、内容」についてですが、各者とも、外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養うという学習指導要領の目標を達成できるように工夫されています。会話文を中心に構成され、コミュニケーションを重点的に扱っております。また、日本文化に触れ、世界の国々の生活様式の違いに触れるなど、様々な文化を学ぶことも意図されています。次に、「人権の取扱い」ですが、各者とも国際平和、人種差別、民族理解、障がい者理解などの題材を取り入れており、生命の尊重や他者を思いやる豊かな心を育む内容となっています。例えば、開隆堂は、3年生でマザーテレサにスポットを当て、国際平和を題材として扱っています。東書は、2年生で、ユニバーサルデザインを取り上げています。その他の教科書でも生徒の関心を高めるような様々な題材を取り入れたり、写真や図、資料等を効果的に取り入れたりして人権学習につなげています。三省堂では、1年生で障がい者スポーツに、2年生でカンボジアに、3年生でキング牧師にスポットを当てて、障がい者理解や国際平和について学べるようになっていきます。「内容の程度」ですが、内容の「量」に関する部分では、学図が最も多くなっており、英語に関する幅広い知識を提供しています。また教出の長文読み物は読みごたえがあるとの現場の意見もありました。一方、「質」に関する部分では、各者とも学年が上がるにつれて扱う文法も複雑になっていきます。その難易度が上がるにつれ、英語から離れていく傾向のある子どもをできるだけつらくならないようにと、各者ともに子どもの興味関心を強く引く題材を取り入れて工夫しています。例えば、三省堂は、2年生で狂言の附子を、3年生でテニスプレイヤーの錦織選手を取り入れています。続いて、「組織・配列」ですが、各者とも4技能のバランスのとれた技能が育成できるように、「聞く」「話す」活動に重点を置きながら、少しずつ「読む」「書く」活動へ繋げていくよう構成されています。三省堂2年生P38をご覧ください。いくつかのLessonで学んだ言語教材や言語活動を生かして展開する、統合的な活動としてのこのようなProjectを各学年3か所に配置しています。また、各学年の巻末に「Can Do リスト」があり、1年間の学習で何ができるようになったのかを確認できるようになっています。開隆堂は教授法のもっとも基本となるPPP（提示 Presentation、練習 Practice、産出 Production）の順に教材を配置し、学習者に学習の流れがわかりやすくなるような工夫をしています。東書3年生のP4をご覧ください。このUnitで基礎の定着をねらっています。続いてP16をご覧ください。Daily Sceneでコミュニケーション活動をねらっています。P18をご覧ください。Presentationで自己表現活動をねらっています。このように3つのステップで学習を進めるようにしています。続いて、「創意工夫」ですが、各者とも色遣いや文字の大きさなどに配慮し、ビジュアル的に見やすくなるように配慮しています。教出では、Essentialsという別冊子があり、基本文や基本語句の定着を図りやすいようになっています。三省堂は、教科書の紙面におき

ましても、カラーユニバーサルの見地より、識別しにくい配色は避け、形や記号、説明文などの補助的な手がかりを設けています。開隆堂2年生P36をご覧ください。このような My Project のページが各学期に用意されていて、目標を立てやすいという現場からの意見もありました。また、各プログラムの目標が「～できるようになろう」などと最初に明示されているので、学習の見通しが持ちやすく、導入から練習へのスムーズな流れを作れるという現場の声もあります。光村2年生P22とP41をご覧ください。このようにメールや手紙に関する内容も丁寧に扱っています。次に「補充的な学習・発展的な学習」についてです。各者とも Lesson の終わりで学んだことをまとめ、それを発展させた表現活動へ繋がられるようになっていきます。例えば、三省堂では、各学年に自主学习につながるページとして、FOR Self-study のページが設けられています。2年生P40などがFOR Self-study です。辞書の引き方や単語の覚え方など、英語の学習の仕方に関するヒントを提示し、生徒の自律的な活動を促しています。開隆堂ではListening、Speaking、Writingそれぞれの発展学習として POWER-UP のページが設けられています。3年生P14などがPOWER-UP のページです。それぞれ個別の技能をさらに伸ばすことをねらっています。最後に「幼小中一貫教育の観点」についてです。「小学校における外国語活動との関連に留意して、指導計画を適切に作成すること」と学習指導要領に書かれているように、各者共に小学校外国語活動との繋がりを意識し、小学校の学習から中学校の学習へとスムーズな転換ができるように工夫されています。1年生の最初に取り上げられているものが特徴的で、三省堂、開隆堂、学図は、町の中の英語を聞くということにスポットを当てています。一方、東書、光村、教出は英語のあいさつにスポットを当てています。開隆堂の流れはスムーズであるとの現場の声もありました。説明は以上です。ご審議よろしくお願いたします。

三宅委員長： ありがとうございます。6者の教科書ですが、いずれも会話中心、特に1年生では小学校からの接続部分に力を入れています。全体的に会話中心になっていて、それに伴って文法などを学ぶようになっていきます。どちらかという、これまでのように読み物中心の教科書から子どもたちの日常を考えた会話中心の構成になっているのが今回の教科書の特性ではないでしょうか。開隆堂は1、2年生が会話中心、学図は読み物が多くなっているとのこと。文法についてもいずれの教科書も Be 動詞からはじまり入りやすくなっています。

西 委員： 小学校で英語はどの程度学ぶのですか。

事務局： 日常のあいさつなど簡単な会話です。ライティングはなく、スピーキング中心です。

三宅委員長： そういう意味でも会話中心から入った方が良いと思います。

田中委員： 文法が入ると一気に学ぶ意欲が低下するという傾向があります。

吉原教育長： 開隆堂は現場の先生方の使い勝手の良さなど、ポイントが高いように感じます。

山崎委員： 1年生の初めを見ると、最近は小学校でもかなり進んでいて、もっと習っているだろうとも感じます。

田中委員 : 小学校では外国語活動に興味関心を持たせるために学習しています。

三宅委員長 : そういう意味では開隆堂の教科書はすんなり入っていきけるのかもしれませんが。

山崎委員 : 三省堂の1年生、小学校のつなぎとしてはなかなか手ごわいなと感じます。

三宅委員長 : どの教科書も基本本文を前に持ってきているのですが、三省堂は、日本語で書いてあって、それから英語で書いてあります。開隆堂は日本語がほとんど入っていません。文法の説明がどの教科書も少しずつ日本語で入っています。これが英語のしくみの学習になります。例えば開隆堂の2年生P160英語のしくみ3も実際のプログラムの中でそのつながりがきちんと書いてあります。一方、いずれも色分けし過ぎていて、少し見にくいようにも感じます。

山崎委員 : 少し質問します。今使っている開隆堂では、リスニングの学習時にCDを使うのですか。毎回デッキを持って行って使うのか、それとも英語の先生が話すのかどうなのでしょう。

事務局 : 両方ございます。

山崎委員 : ALTは毎時間入るわけではないですよね。

事務局 : 毎時間は入りません。

三宅委員長 : 会話が大切にされているので、先生たちの発音も大切ですね。

山崎委員 : 高校入試などでもリスニングはありますから、それに対応できるようにした方が良いでしょう。

西委員 : 定期テストでもリスニングはありますよね。CDの発音に慣れておいた方が良いでしょう。先生の生の声というのも大切だと思います。

三宅委員長 : 開隆堂は、発音クリニックがあって、発音を復習できるようになっています。

山崎委員 : 私はどうしても辞書を引いてほしいなと思ってしまいます。例えば開隆堂は辞書を引くというのがP23に出てきます。三省堂は、P86まで出てきません。東書はP37、52、53とかなり詳しく出てきます。私はできるだけ早く辞書は引かせたいなと思います。

田中委員 : 今、辞書は引いていますか。高校生は多くが電子辞書を使います。

事務局 : 柏原市では小学校の卒業の祝品で英和辞典が贈られることが多いです。

三宅委員長 : 会話から書くことに展開していくので、どうしても後の方に出てくるのでしょうか。いずれにしても、辞書の使い方はきちんと教える必要はあると思います。

西委員 : 発音記号も2年生からなのですね。巻末にはありますが。

三宅委員長 : 開隆堂は発音の注意が1年生からしっかり書かれていますね。読み物については、どの教科書も、負担にならない程度の短いものから学年が上がるにつれてしっかりした読み応えのある読み物になっています。

田中委員 : 中学校ではほとんど英語を使って授業をしているのですか。

事務局 : 全て英語というのは現実的には難しいです。ALTと授業をする時には英語で展開されます。

三宅委員長 : 読み物の話をしましたが、東書では3年間で8編、開隆堂も8編、その中で落語や日本の伝統文化なども取り入れられています。時間も迫っていますので、絞り込ん

でいきましょう。これまでの話で上がってきているのは三省堂、開隆堂といったところでしょうか。教出の場合は別冊のエッセンシャルがありますね。他に何かございませんか。

西 委員 : 今、子ども達は、筆記体は学習するのですか。

事務局 : ほとんどの学校は、学習しません。

西 委員 : 参考ということなのですね。

三宅委員長 : それでは、三省堂、開隆堂の二者で決めたいと思います。挙手をお願いします。

【2者について、挙手】

三宅委員長 : それでは、外国語（英語）については挙手多数の「開隆堂」に決めさせていただきます。ありがとうございました。これで、全教科、全科目終了したわけですが、決定した教科書に対する問い合わせがあれば、出していただくということですね。議事録については、9月1日以降に公開ということにさせていただきます。これで、議案第30号 平成28年度使用柏原市立中学校教科用図書採択についての審議を終了し、平成27年第2回臨時教育委員会会議を閉会といたします。

本教育委員会会議の議事の経過に相違ないことを証するためにここに署名する。

平成27年7月28日

柏原市教育委員